

献 辞

田中秀夫教授は、平成24年1月9日に64歳の誕生日を迎えられ、同年3月31日をもって、本学を退職されることになりました。

田中教授は、昭和46年3月に滋賀大学経済学部を卒業後、同大学経済学専攻科、京都大学大学院経済学研究科修士課程および博士課程で学びました。昭和56年4月に甲南大学経済学部講師に採用され、その後、同大学助教授、教授を経て、平成2年4月に京都大学経済学部助教授に着任されました。また平成5年5月には京都大学博士（経済学）の学位を授与され、12月に教授へ昇任、平成8年には大学院重点化に伴い京都大学大学院経済学研究科教授となりました。本学では23年の長きにわたり、歴史・思想分析大講座所属の教授として、「社会思想史」、「比較社会思想史」、「社会経済思想史」、「経済哲学」などを担当され、本研究科の教育・研究に尽力されました。

田中教授は、古代思想から現代思想までを扱う学部演習を開講され、熱心なご指導により、多様でユニークな卒業生を世に送り出してこられました。また大学院生に対しては、院生との共著・共訳活動によって彼らに研究の刺激を与えるとともに実践的な指導を行う特徴的な教育活動をすすめられ、その成果は、数々の翻訳書や研究書の形で出版されてきました。さらに学会活動においては、所属の異なる若手研究者や院生に対しても、翻訳や研究書出版計画への参画を積極的に求め、思想史研究のさらなる活性化にも多大な努力を傾注されました。

田中教授は、博士学位請求論文でもある主著『スコットランド啓蒙思想史研究』（名古屋大学出版会、1991年）の出版以来、フランス啓蒙やドイツ啓蒙に関する研究に比べて立ち遅れていた18世紀後半の英国スコットランドにおける啓蒙思想研究を、学術分野として確立する作業に従事されました。田中教授の精力的な研究活動は、スコットランド啓蒙思想研究という「処女地を開拓するトラクター」とも評されたように、同分野の研究を長期間にわたり牽引されてこられました。田中教授のご研究によって、アダム・スミスやデイヴィッド・ヒュームといったビックネームの思想家だけでなく、群小さまざまな思想家からなる、一大国民運動ともいべきスコットランド啓蒙思想の総体が析出されたと言っても過言ではありません。いまや田中教授の長年にわたるご研鑽により、同研究分野は、後進の研究者がより深く耕すことができる豊かな開墾地になっていると言えます。

近年では、二十数年前にスコットランド啓蒙思想研究がそうであったように、現在も未開拓なアメリカ啓蒙思想の特徴を、スコットランド啓蒙思想との連関から解明する作業をすすめられ、新たな「処女地」の開拓の試みとして、大著『アメリカ啓蒙の群像』（名古屋大学出版会、2012年）を上梓され、英米間の思想的交流の解明という課題をわたしたちに提示されました。

田中教授は、平成17年4月から平成19年3月まで京都大学教育研究評議員を務められました。平成22年4月から平成24年3月までの大学院経済学研究科長および経済学部長の在任期間には、他の文系研究科長と共同で、総長裁量経費による若手研究者出版助成の制度化にご尽力されました。また日本イギリス哲学会会長をはじめ、経済学史学会、社会思想史学会では幹事・理事などの要職に就かれ、長らく学会において指導的役割を果たされました。さらに英国王立歴史学会海外フェローにも選任されるなど、国際的な視野をもって研究活動を行われることに努められました。その中で多くの海外研究者との交友関係を構築され、本研究科での数多くの国際セミナーの開催を通し

て、本学の国際交流にも貢献されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功績と学恩に感謝と敬意の気持ちを込めて、本記念号を編集いたしました。先生と研究交流のあった方々のご指導を受けられた方々の論文を編んで先生に捧げることができますことは、わたくしどものこの上ない喜びであります。

先生が、今後ともご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍くださいますことを心よりお祈り申し上げます。

平成 25 年 1 月 15 日

京都大学大学院経済学研究科 研究科長 植 田 和 弘